

# 原・浮島 ぐるり MAP

新東名高速・駿河湾沼津サービスエリア  
スマートインターからも楽々アクセス!

A B



23 駒止の榎  
源頼朝が馬を休ませるために使用した榎の木が移植され、浮島中学校に現存します。



24 浮世絵にもなった浮島ヶ原  
浮島沼(富士沼)は富士山を眺望できる風光明媚な場所として旅人の疲れを癒し、芸術家の感性を刺激し続けました。江戸時代の浮世絵師・歌川重光が美しい風景画を残しています。

25 男鹿塚  
離ればなれとなった夫婦の鹿の昔話のほかに、武田信玄が興国寺城を攻めたとき、城主と奥方が別れ別れに逃げ、一本松のところで自刃したそうです。そのため城主の亡くなった場所を「男(を)が塚」と呼ぶという説もあるそうです。

26 すいどっかどと湾処  
魚が棲みやすい川を作ってほしいと浮きウキ子供クラブが浮島地区環境保全推進会に提案し、「すいどっか」という農業用水路を改修してもらいました。川にくぼみ、いわゆる湾処を作って、魚のすみかを作りました。

27 ツバメのねぐら  
浮島には季節になるとツバメが大量で飛来します。女鹿塚に現存する大きな葎原に巣を作り、7月後半から8月にツバメのねぐら入りが見られます。

28 女鹿塚  
浮島には昔、仲のいい夫婦の鹿が棲んでいたそう。あるとき、烈風のため島が二つに割れて東西に吹き流され、二頭は別々に棲むようになってしまいました。そのため東にある塚を女鹿塚と呼ぶそうです。

あ

い

う

え

お

か

き

く

あ

い

う

え

お

か

き

く

●東海大学

新東名高速道路

東名高速道路

浮島地区センター

ひがなばなロード

浮島中学校

浮島小学校

ひまわりランド

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

2 井出丸山古墳

慶應山麓には、旧石器時代から人が住み着きました。井出丸山遺跡で発見された石器は、3000年前のものと考えられ、浮島地区には特に早い時期から人が住んでいたことが推測されています。当時はまだ縄文時代で海でしたが、縄文時代の初め頃には土砂の堆積で現在のような海岸線が形成されたと言われています。

3 銀杏観音

子を受けた女性が乳が出ず、困り果てると夢に「寺のイチョウの木に行き、願いをこめてお願いを聞かせよう」という神様の言葉を聞き、それを授けるところに乳が出、子はすくすく成長したという話があります。現在では観音様が作られ、銀杏観音様と呼ばれ親しまれています。



4 大泉寺  
源氏ゆかりの寺。源氏一門・阿野全成(頼朝の異母弟・義経の兄)の隠居地。全成が首を切られたあと、供養のために持ち帰った首を、北条氏が占領する中に入られず、首を入口にあった松にくくりつけたため「首掛け松」と呼ばれたといわれています。



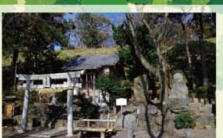
5 大泉寺・阿野全成・時元の墓  
兵を挙げると敗れ自刃した阿野全成・時元親子の墓があります。お墓は沼津市の指定史跡。

6 河毛惣左衛門の墓

興国寺城主。豊臣秀吉の武将・中村一氏の家臣。興国山「本法寺」を開基。惣左衛門重次使用の鎧と馬の鞍が寺宝となっています。



7 興国寺城跡  
小田原北条(後北条)五代の基を築く。興国寺城主北条(天守台下)には惣見神社が建ち、その右には初代城主・北条早雲の墓と最後の城主である天野三郎兵衛康景の墓があります。



8 穂見神社  
穂見神社は江戸時代、安政年間の大震災の被害に際し、1857年に五穀豊穡の御利益がある農業神「高尾山穂見神社」を山梨の高尾山穂見神社より分祠し建立されたものです。東照堂にも穂見神社はありますが、こちらは1846年に山梨の高尾山穂見神社より分祠されたものです。

高橋川

沼津特別支援学校

原東小学校

白隠さくら

沼川

22 なかみち(白隠のみち)

松蔭寺門前の通りや白隠禅師産湯の井戸などをめぐる白隠のみち。周辺にある数々の名刹や名園「帯笑園」など貴重な歴史遺産を結んだ風情ある道です。

白隠誕生地

21

20

19

18

17

16

15

原 駅

遊歩道

駿河湾

遊歩道

大通寺 羅漢さん

水落堀(掘割跡)

浮き上げ遺跡

9 10 11 12 13 14 24

9 妙薬寺・増田平四郎の墓  
昔から多くの水害に見舞われていた浮島地区。その災害をなくすために尽力した増田平四郎は1836年に浮島沼の水を海に排除する計画を立て、苦勞の末、慶応二年の春には九割がた完成しましたが8月の高波で堤防が崩れ、平四郎は完成を見ずに亡くなりました。当地はのちに昭和第一放水路となりました。

10 東海道中膝栗毛  
江戸時代の旅物語、十返舎一九の『東海道中膝栗毛』のなかに東海道の問答「柏原宿」の名物として「うなぎの蒲焼き」が登場します。弥次さん喜多さんはその匂いを嗅ぎながら「蒲焼きにおいがかぐも、うとまじや、こちら二人は、うなぎの旅」と言って、「うなぎ」と「難儀」をかけて、我慢して通り過ぎていきます。

11 鎌倉古道  
昔、浮島には都ににつながる鎌倉古道がありました。浮島沼の地形に合わせて曲がりくねったまぜまぜ道でしたが、交通の要衝として多くの旅人に利用されたといえます。現在では長年の整備によって一部を除き消滅してしまいました。

12 湧水  
富士山や沼津山の伏流水が至る所で湧き出す浮島沼。多くの湧水は今でも地域住民の生活を支えています。マップでは自由に汲み取る湧水を中心にマップしました。詳細は浮島地区センターにも展示されています。

13 蛍が見られる場所  
5月から6月にかけて本広寺近くの水源地で蛍が見られます。川沿いにたくさんいる蛍が舞い飛び、幻想的な世界が楽しめます。

14 浮島沼  
海が山や川からの砂の堆積によって蓋がれたために出来た沼。幕末・明治初期には「富士八潮」のひとつとして名を馳せたほど。ここに生息する特有の動植物も多く、その保全が地域の大課題です。



15 徳源寺 子安さん  
寺の庭は、東海道の名園と言われた原宿・植松家の「帯笑園」の名残をのこす富士山の溶岩の庭「対笑園」があります。



16 昌原寺 七面さん  
白隠宗、開基徳川家康の側室・お万の方。白隠さんはここで日蓮上人生地の話を聞き、のちの出家の動機となりました。身延山久遠寺の裏鬼門を守る守護神七面大明神(七面天女)を祀る祭典は毎年五月。



17 西念寺 天神さん  
西念寺天満天神(学問の神様、天神さん)は山城国北野本より遷されたもので、白隠さん幼少の頃、地獄の苦しみから逃れたい一心で日々参拝に訪れたそうです。天満宮大祭は毎年七月。



18 松蔭寺 白隠さん  
白隠禅師の墓は本堂裏の墓地にあり、三基の石塔のうち、向かって左側が白隠のもの。白隠の遺骨は、三島市の臨濟寺、富士市比奈の竹塚公園(旧無量寺跡)にも分骨されています。



19 清梵寺 お地藏さん  
寺の創建由来となる地蔵尊に加え、十一面観音を本尊とし、毎年「海の日」7月24日には恒例の地蔵尊縁日が開催されます。



20 長興寺 金比羅さん  
金比羅大権現は海と医家の神様。赤ちゃんと立寄相摸は、金比羅さまに赤ちゃんの元気を祈る声をお願いし、健康と無病を願います。



21 帯笑園  
代々風流を好む植松家当主は、庭の中心に「望遊亭」と名付けた茶室を設け、富士山と庭の眺めを愛しました。東海道に面した立地条件から、江戸時代には街道を行き交う大名から庶民まで、明治以降は政治家や軍人たちが訪れ、この庭を賞賛しました。